

- 近年、宮古島市では、補助事業による施設整備や新規就農に係る支援事業の実施により、サヤインゲンの作付け面積及び栽培農家戸数が増加している。しかし、**栽培管理や施設管理について農家間の技術格差が大きく、産地の課題**となっている。
- このため地域農業振興総合指導事業を活用し、**栽培技術の高位平準化や産地リーダーの育成、産地協議会との連携強化**に取り組んだ。

## 具体的な成果

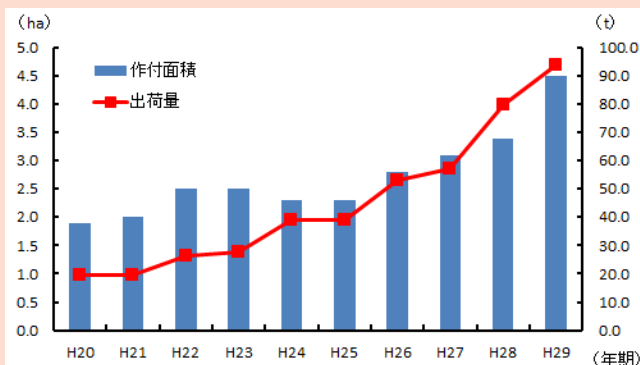
### 1 作付け面積及び出荷量の増加

#### ■ サヤインゲンの作付け面積増加

H28年期 3.4ha → H29年期 4.5ha

#### ■ サヤインゲンの出荷量増加

H28年期 79.9t → H29年期 93.6t



### 2 品質及び産地力の向上

#### ■ 県野菜品評会のサヤインゲン(関東)の部で、金賞と銅賞受賞



### 3 栽培農家戸数の増加

#### ■ JAインゲン専門部会員数の増加

H28年期 45戸 → H29年期 56戸

## 普及指導員の活動

平成29年度

- 県関係機関及びJAと連携し、**講習会や現地検討会の内容充実**
- JAインゲン専門部会の**計画的な作付け実施支援**

平成29年

- 県関係機関及びJAと連携し、**年間活動計画作成**
- 産地の課題解決を目的とした、**先進地視察研修実施**
- 技術情報誌を発刊し、**栽培時期に応じた技術的情報の発信**

平成29年

- 生産環境改善取り組み支援として、**生産工程管理(GAP)に関する情報提供**

## 普及指導員だからできたこと

- ・ 農業研究センターや病害虫防除技術センターなどの県機関や宮古島市、JAなど、**関係機関が連携した取り組み実施**
- ・ 農業研究センターの研究成果や、他府県の情報などを取り入れ、**産地の課題解決に向けた実証展示園設置**

沖縄県

## 宮古島市におけるサヤインゲン産地育成

活動期間：平成 29 年度～（継続中）

### 1. 取組の背景

宮古島市において、サヤインゲンは冬春期県外出荷野菜の主力品目であり、市場性も高く、生産拡大が求められている。また、近年、補助事業による施設整備や新規就農に係る支援事業の実施により、作付面積及び栽培農家戸数が増加している。しかし、農家毎で栽培管理や施設管理などが異なり、農家間に技術格差が生じている。そのため、宮古島市におけるサヤインゲン産地育成を目的として、栽培技術の高位平準化、産地リーダーの育成、産地協議会との連携強化に取り組んだ。

### 2. 活動内容（詳細）

地域農業振興総合指導事業を活用し、宮古農業改良普及課、農業研究センター宮古島支所、病害虫防除技術センター宮古駐在、宮古島市、JA おきなわ宮古地区営農振興センター、JA インゲン専門部会、農業士と連携して以下の課題に取り組んだ。

#### （1）栽培技術の高位平準化

JA インゲン専門部会を対象として、栽培講習会や現地検討会を開催した。また、新規栽培農家を対象とした講習会を別途開催した。

#### （2）産地リーダーの育成

JA インゲン専門部会を対象として、市場報告会や先進地視察研修などを行った。

#### （3）産地協議会との連携強化

JA インゲン専門部会を対象として、生産環境改善取り組み支援や販売促進活動などを行った。

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### （1）作付け面積及び出荷量の増加

作付け面積は平成 28 年 3.4ha から平成 29 年 4.5ha と増加した。また、作付け面積の増加に伴い出荷量も平成 28 年 79.9t から平成 29 年 93.6t と増加した。



(2) 品質及び産地力の向上

平成30年1月に開催された第28回沖縄県野菜品評会のサヤインゲン(関東)部門で、宮古島市から出品されたサヤインゲンが金賞と銅賞を受賞した。



(3) 栽培農家戸数の増加

新規就農者等の新規栽培農家を対象とした栽培講習会や現地検討会を実施することで、JAインゲン専門部会員数が平成28年期45戸から平成29年期56戸と11戸増加した。

#### 4. 農家等からの評価・コメント

(JAインゲン専門部会役員A氏)

新規栽培農家の加入でJAインゲン専門部会の会員数が増加し、部会が盛り上がっている。また、部会のなかで、出荷量の増加や単収向上、品質向上への意識が高まっている。

(指導農業士B氏)

サヤインゲンの作付け面積や出荷量が増加しているが、今後も単収と品質向上に取り組んでいきたい。また、出荷量の増加に伴い、販売単価を維持するには、出荷形態や販路拡大の取り組みも必要である。

#### 5. 普及指導員のコメント

(普及指導員C氏)

関係機関が一体となって栽培講習会や現地検討会を開催することで、JAサヤインゲン専門部会員がほぼ全員参加するなど、部会として意識が高まっている。また、新規就農者等の新規栽培農家を対象とした講習会を開催することで、技術向上や就農定着に繋がっている。

#### 6. 現状・今後の展開等

今後も引き続き、関係機関との連携を強化して、栽培技術の高位平準化、産地リーダーの育成、産地協議会との連携強化に取り組む。

また、新規就農者等の新規栽培農家については、農業士等の協力を得ながら、技術向上や就農定着に向けての支援を継続する。